

岡山県

小学校六年生の時、神奈川県から岡山県へ引っ越してきた。住み始めて三日目、私は誓った。「こんなところ何年住んだとしても、絶対好きにならない。」

岡山は私にとって異世界だった。方言で何言ってるのか意味が分からないし、田んぼばかりだし、関東の友達に「岡山に引っ越した。」って言うと「どこだっけ。」って言われるし。自分がそんな場所に引っ越したことを認めたくなかった。

転入した小学校のクラスは六人しかいなかった。初めての転校で、正直怖かった。だが、教室に入った時、怖さなんて吹っ飛んでしまった。黒板に大きく、「今日はひかるちゃんが転校してくる日！」と書いてあったのだ。みんなの輝く笑顔と歓迎の言葉に包まれた瞬間を、今でも鮮明に覚えている。ここに居ても良いのだと、認めてもらえたのだと感じた。その日から、私の誓いは揺れていった。地域の方は、たくさん野菜をよくくれた。外出して帰ってくると、玄関に野菜が置いてあることもしょっちゅうある。学校から帰ってくると、近所の人たちが「おかえりなさい。」と言ってくれる。子どもたちは大きな声で「ただいま帰りました。」と返す。下校中は寄り道もした。山の方を歩いて、木の実を取って、田んぼでおたまじゃくしを探しながらゆっくり帰った。神奈川では想像できないし、体験したことがないことばかりだ。本当は、突然の転居で寂しかった。神奈川が大好きだったから、岡山の良いところから目を背けたかった。でも駄目だ。こんなに温かい場所だったなんて、私の負けだ。岡山のことを大好きになってしまった。

私は来年大学生になる。岡山での七年間は、私を人として成長させてくれた。ありがとう岡山県。初めは酷いことを言ってごめんなさい。

ここは私の、二つ目の故郷になった。